



アロハノートあれこれ

こどもたちがアロハノートに様々な意見や感想を記入しています。6年生のこどもたちの意見を紹介します。

『4月25日 ちょうど1ヶ月前に、ネパール大地震がありました。マグニチュード7.8、ネパールやネパールの周りの国もあわせ死亡者は8700人以上、地震の影響でエベレストでは、なだれがおきました。日本でも4年前、2011年3月11日に東日本大震災がおこりました。そのとき、日本は周りの国々に助けられました。次は、助けてもらったぶん、私も募金に協力したり、自分にできることをします』

ネパールは、1日2ドル以下で生活する人々が人口の70%を越え、世界でも最も貧しい国のひとつといわれています。しかし、東日本大震災の時には、みんなが少しずつお金を出し合って、日本に5000枚を超える毛布を送って下さいました。貧しい暮らしの中でも、困っている人を助けるのは当たり前だと考えるネパールの人達の心の豊かさが有り難く、私も大変感動しました。

運営委員会で「ネパール大地震への募金」活動に取り組もうとしているのも、このノートの持ち主と同じように「自分にできる事はないだろうか!？」と考えるこどもたちがたくさんいたからだと思います。わたしたちの羽合小学校のこどもたちもやはり心豊かなこどもたちなのだと思います。とってもうれしいです。今朝、児童玄関で「募金を持ってきてけれどどうしたらいいですか?」と尋ねられました。これもまたうれしかったです。

もう一人紹介します。

『もうすぐ運動会があります。今、一所懸命練習しています。ぼくはひとつひとつの種目に頑張ります。自分がやってないときでも赤組が勝てるために応援に頑張ります。感動する、おもしろい運動会にしたいです。』

こどもたちが一所懸命に取り組む姿にわたしたちは心を動かされます。**勝ち負けや成功、不成功を越えた感動がそこにあります。**「一所懸命はかっこいい!!」一所懸命はわたしたちの心を動かすからです。感動の運動会が待っています。30日はハンカチもお忘れなく!

【山内篤処 (やまのうち とくしょ) 先生】

プール横の駐車場に顕彰碑があるのをご覧になられた方もあるかも知れませんが、山内篤処という方は幕末から明治にかけての学者、教育者で、明治13年に長瀬宿に「楽只塾(らくしじゅく)」という私塾を開きます。この塾には倉吉を始め日野や西伯、気高など近郷から多くの人々が門を叩きたくさんの人材を輩出しました。郷土の教育者として業績を讃えて作られた碑が、羽合小学校に引き継がれています。

羽合小学校 寺谷英則